

はじまる×はじめる ESD



ほし ～この地球を 未来へつなぐ 学びの10年～

ESDとは

「持続可能な開発のための教育/Education for Sustainable Development」の略。持続可能な社会の実現を目指し、私たち一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育む教育です。

世界の人々がESDに
取り組みます

国連持続可能な開発のための教育の10年(2005～2014)

きっかけは2002年、ヨハネスブルグサミットでの日本からの提案。国連総会でその実施を決め、2005年より「ESDの10年」がスタートしました。

どうして ESD?

環境破壊や
貧困問題が
私たちの未来を
脅かしています

従来型の開発は、物質的な豊かさをもたらす一方で、環境破壊、貧富の格差拡大、人権侵害など、多くの問題を生み出しています。将来世代を含む世界中の人びとが、安心して暮らせる社会を手に入れるために、環境保全、経済開発、社会発展をバランスよく保つ、新しい開発が必要とされています。



ESDの視点は、
環境、経済、社会
のバランスを保
つこと

どうする ESD?

「知っている」
だけでは何も
変わりません

多くの人がその必要性に気が付きつつあるのに、どうして社会はなかなか変わらないのでしょうか？今私たちには、単に知識として理解するだけでなく、社会の課題と自分のつながりに気付き、行動できる「意欲」と「能力」を持った「人」と、その行動を支える「人と人のつながり」を育てることが必要なのです。



人づくり



人と人のつながり

ESDは、持続可能な社会づくりに参画する「人」と「人と人のつながり」を地域全体で共に育む活動です

ESDとは

従来の知識伝達型
教育ではありません

具体的な課題・問題を解決するために考え、話し合い、行動しながら学ぶ学習活動です。

ESDの対象は子ども
だけではありません

学校、企業、地域住民、行政、NPO... 多様な立場や世代の人々がESDの担い手であり、学び手です。

多様なテーマを総合
的に扱います

問題の多くは、様々な要素が密接に関わりあっています。それらのつながりを考え、具体的な問題解決へ結びつけます。

未来を描くこと

現実を学び、自分たちが望む未来を描くことから始まります。



ESDをはじめよう!

様々な立場の人たちが集い、持続可能な地域づくりに向けて、できること・やりたいことを話し合みましょう。

様々な立場の人たちを効果的に結ぶ役割を担った、地域のコーディネーターを育成しましょう。

政府は、各地域でのESDの取り組みを、様々な事業等を通じて支援していきます。



活動でみるESDのイメージ

①既存の取組を地域のESDへと発展させた事例（岡山県岡山市京山地区の取組）

1 動機は地域が抱えている問題

疑問・感じる



いくら掃除してもなくなる下流の河川ゴミ、「上流はどうなっているの？」

2 調査、体験、気づき

知る



台所を流れる使い川→

疑問を感じた子ども達を連れて、上流を調べると、水も水辺も美しく、川が暮らしの中で活かされていた

3 地域を見直す

考える

行動する



↑ 古者と語る会

「なぜ下流ではできないのか？」多様な人々が集まり、過去と今を探り、地域で話し合った

4 地域の人々に伝える

発信する



水辺マップ↑

川の点検や環境調査を地域協働で実施。環境改善のため啓発用看板を設置、水辺マップを配布

5 地域のためのづくり



岡山KEEPの結成

公民館を核に学社連携・全世代合同による岡山市京山地区ESD環境プロジェクトを立ち上げた

6 地域の未来を描く



子どもも大人も一堂に会し、地域の過去・現在・未来を語り、未来を描き、未来を創る活動へ

7 国際理解から国際貢献へ



外国人等との交流を通じ、身近な温暖化対策等も大事な国際貢献と認識し実践するようになった

8 環境+経済、社会・文化



日本文化を見直し、経済的効果も高い省エネ省資源型の生活様式を学び合い、地域で実践した

9 仕組みをつくる



ESDデー・フェスティバル等を開催し、地域全体にESDを広げ、継続する仕組みづくりへ

②地域の取組が世界へつながった事例

愛媛県松山市：えひめグローバルネットワーク

放置自転車からみえる自分・地域・世界のつながり

アフリカ紛争地での武装解除のために、松山市にあふれる放置自転車を送り、武器回収に役立っている。この活動を通して、身近な地域の交通状況、大量消費・廃棄の問題を見つめ直し、世界の問題への関心を育てている。

自転車などの生活用品と武器を交換し回収、武器は現地警察により処理される



③高校生の取組が地域の経済的発展に結びつく

鹿児島県串良町柳谷集落

イモづくりから始まった村おこし

過疎高齢化が進む村で、高校生12人が始めたカイモ栽培が、集落全体で営農できるしくみをつくり、村の収益性を高め、高齢者宅の緊急警報装置を設置するなど、地域経済・社会の発展に結びついた。さらに村人総出で土着菌センターを建設するなど地域を元気にしている。

高校生が動けば、大人も、地域も動き出す！



様々な人たちが話し合う「場」を作ったり、現状の活動に多様な分野の人を招いたり、はじめの一步は様々です。あなたの地域にあった方法を考え、ESDに取り組んでみませんか。

わが国における 「国連持続可能な開発のための教育の10年」 実施計画（概要）

基本的 考え方

- ・2014年までに一人ひとり、各主体が持続可能な社会づくりに参画できるようになること
- ・環境保全を中心に、環境、経済、社会の統合的な発展について取り組むこと
- ・開発途上国が直面する諸課題への理解と協力を強化すること

ESD 実施指針

1 地域づくりへと 発展する取組

地域特性に応じた実施
方法の開発、発展

2 教育の場、 実施主体

学校等の公的機関、地
域コミュニティ、NPO、
事業者、マスメディア等
あらゆる主体が実施

3 教育 の内容

様々な分野を、環境、
経済、社会の側面から
学際的・総合的に扱う

4 学び方 教え方

参加型アプローチを
重視して、具体的行
動を促す

5 育みたい力

体系的な思考力、代替
案の思考力、データ分析
能力、コミュニケーション
能力等

6 多様な主体の 連携・協働

各主体の連携の強化、コ
ーディネーター、プロデ
ューサーとなる人材や組
織の必要性

7 評価

企画、実践、評価、改善
する過程の重視

ESD 推進方策

1. 初期段階の重点的取組事項

(イ)普及啓発

あらゆる教育現場で、ESDの
普及啓発に努める

(ロ)地域における実践

地域特性に応じた取組の支援

(ハ)高等教育機関における取組

各分野の専門家を育てる過程での
ESD実施の促進。調査研究支援、
各地域における主体としての取組支援

2. 国内推進方策

- (イ)ビジョン構築、意見交換
- (ロ)協議による政策決定、関係
者の主体性の促進
- (ハ)パートナーシップとネットワ
ークの構築・運営
- (ニ)能力開発、人材育成
- (ホ)調査研究、プログラム開発
- (ヘ)情報通信技術（ICT）の活用

3. 各主体に期待される取組

- (イ)個人、家庭 (ロ)学校
- (ハ)地域コミュニティ (ニ)NPO
- (ホ)事業者、業界団体
- (ヘ)農林漁業者、関係団体
- (ト)マスメディア
- (チ)教員養成・研修機関
- (リ)社会教育施設、公的な拠点
- (ヌ)地方公共団体

4. 国際協力の推進

- (イ)国連機関等との連携・協力
- (ロ)アジア地域を中心とした地域
レベルの協力の推進
- (ハ)開発途上国における人づくり
等への支援
- (ニ)各主体との連携、民間団体の
取組の支援
- (ホ)国民の国際理解の増進
- (ヘ)国際社会への情報発信

評価と 見直し

評価方法の検討、中間年での見直し、
2014年における10年間の評価と、
以後の検討を行います。

関係省庁 連絡会議

内閣官房・外務省・文部科学省
環境省・内閣府・総務省・農林
水産省・経済産業省・国土交通
省・法務省・厚生労働省

関連ウェブサイト

- 内閣官房 <http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokuren/index.html>
- 外務省 http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/edu_10/index.html
- 文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/jizoku/index.htm
- 環境省 <http://www.env.go.jp/policy/edu/desd.htm>
- NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J) <http://www.esd-j.org/>

ESD-Jとは

ESDおよび「ESDの10年」の推進を目的として設置されたNGO/
NPO・個人のネットワーク団体(2003年6月設立)



発行

「国連持続可能な開発のための教育の10年」
関係省庁連絡会議

<ESDの10年に関するお問い合わせは>

- 外務省(国際社会協力部 地球環境課) TEL:03-5501-8245
- 文部科学省(大臣官房国際課) TEL:03-5253-4111(代表)
- 環境省(総合環境政策局 環境教育推進室) TEL:03-5521-8231